

学習・教育目標	建築都市デザイン学科では、ディプロマポリシーとなる以下の9つの学習・教育目標を定めています。 (A) 科学技術全般とデザイン科学に対する共通のリテラシーを身に付ける (B) 地域における多様な主体との間で意思疎通が図れるコミュニケーション能力を身に付ける (C) 人間と社会・文化・地域に関する教養を身に付ける (D) 建築・地域デザイン技術者としての倫理観を養う (E) 自然現象のメカニズムを理解し、建築・地域デザイン技術に活かす能力を身につける (F) 人間および社会の要求・条件を理解し、建築・地域・環境・制度を構想する能力を身に付ける (G) 資源活用と建設プロセスを構想し、建築・まちづくりとして実現する能力を身に付ける (H) 歴史文化を尊重し、目標を立てて建築・地域を創造するデザイン能力を身に付ける (I) 工学・地域デザイン科学と芸術・文化のバランスのとれた感性を磨く
---------	---

授業科目名	授業の内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	学習・教育目標の項目との関連								
				ディプロマポリシーの項目記号								
				達成目標（ディプロマポリシー）の項目との関連を0.0, 0.1, 0.2, …, 0.9, 1.0の数値で表す								
A	B	C	D	E	F	G	H	I				
初期導入 新入生セミナー	本講義は、建築都市デザイン学科に所属する教員がそれぞれの専門分野を新入生に紹介するとともに、これから専門課程で勉強する内容やそれらを活用する対象についてわかりやすく説明する。またキャリア形成に関する説明および修学指導も行う。	建築都市デザイン学科の学習目標(1)科学技術全般とデザイン科学に対する共通のリテラシーを身に付ける、に関連する	(1)科学技術に対する共通のリテラシーを身に付ける。 (2)実務や実社会の問題を題材として建築に関する各専門分野相互のつながり、実務との関係について理解する。 (3)建築に関する専門分野を通して、社会や地域の問題に興味を持ち、種々の観点から自分の考え方を纏めることができること。 (4)キャリア形成に関して理解する。	1	0	0	0	0	0	0	0	0
スポーツと健康	集团的スポーツと個人的スポーツ(軽スポーツ的な内容を含む)から、学生は、希望の種目を受講する。自己の体力および心身の健康への認識を深め、運動する楽しさ、ストレス発散、技能の向上を図る。チームワークを高め、試合運営について熟知できるようにして、様々な人達と接する機会を増やしながら、グループ間での学び合いなど、社会・対人関係力の形成に努める。また、運動する楽しさや意欲的な学習への動機づけも行う。 以上のカリキュラムによって、履修した運動種目の知識、技能の基本的な能力の修得を通し心身の健康を維持し、体力向上への意識づけを図るとともに今後発展するコミュニケーション能力、リーダーシップの基盤を養成することを旨とする。	生涯にわたる豊かなライフスタイルの形成に向けた心身の健康の重要性を、スポーツの経験を通して理解させる科目である。	身体・体力面(自己コントロール、適応力、耐性、自律性、達成感など)とともに社会・対人関係面(共感性、リーダーシップ、協調性、連帯感、コミュニケーションなど)における能力が身につけている。	0	1	0	0	0	0	0	0	0
情報処理基礎	情報化社会において共通に持つべき情報リテラシーの修得を図る。具体的には、ウェブ、電子メール、オフィス系ソフトウェアの標準的な使い方とそれらの間の有機的連携方法、本学の総合メディア基盤センターのコンピュータおよびネットワーク環境について、実習を主とした演習形式で学習する。	学部共通の学習・教育目標「(B)科学技術と地域デザインに関する共通のリテラシーを身に付けている」に寄与する。	インターネットおよびオフィス系ソフトウェアなどの基本操作を修得し、建築都市デザインに必要なコミュニケーション、文書作成、データ分析、プレゼンテーションのリテラシーを身につける。	1	0	0	0	0	0	0	0	0
リテラシー科目 とちぎ終章学総論	高齢社会に関する課題を自らの問題として捉え、高齢者と共に生きるため、また、自分自身も豊かな終章を生きるための知識について学ぶ。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性の基礎を身に付けるための科目である。	・人間がどのように老いていくのか、その生き方の多様性を理解し、関心を持つ。 ・高齢社会における生活をめぐる課題について理解し、解決策について考える。 ・自らのこととして老いや終章について考えることにより、人生を積極的に生きる意欲を喚起する。	0	0	1	0	0	0	0	0	0
英語	1年次において、「Integrated English A」では、Study Skills の養成後、Oral Communication と Reading を主とした4skills (speaking, listening, reading, writing) の育成を、「Integrated English B」では、Oral Communication と Writing を主とした4skills の育成を図る。2年次以降の「Advanced English I, II, Advanced English III」の各クラスにおいては、基本的な英語運用能力を基に、個々の学生の興味に応じて、特定のskillに焦点をあてた英語力の育成を図る。 TOEICによりクラス分けを行い、習熟度に対応した英語力養成を徹底し、入学時に英語能力が高い学生には、通常学生と異なるHonors Programを、4年間にわたり履修可能とする。 以上のカリキュラムによって、卒業までに「現在国際的に活躍しているビジネスパーソンの平均的英語力」以上に到達する学生が、全学生の50%以上になることを目指す。	地球的視野を持った21世紀型市民を育成するために、国際的な通用性を備えた質の高い英語力を養う科目である。	「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」の4技能のバランスのとれた総合的なコミュニケーション能力とともに、文化的背景に関する知識についても学習することで、仕事や専門分野の研究に必要な基本的英語運用能力が身につけている。	0	1	0	0	0	0	0	0	0
人文科学系科目	哲学、心理学、文学、芸術、人文総合領域の領域からなり、これらの科目を履修することによって、人文科学に関する基礎的な知識と考え方を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの人文科学系の科目である。	教養の根本である哲学、心理学、文学、芸術の入門を学び、人間の本性や行動の背景を理解するための基礎的な知識や考え方、文学、文化、芸術の評価や鑑賞のための基本が身につけている。	0	0	1	0	0	0	0	0	0
社会科学系科目	日本社会のみならず、国際的な視野に立ち、それぞれの社会の理解を深める過程を通じて、我々の日常生活を取り巻く環境を正しく理解し、現実社会の様々な問題に対応可能な理解力や思考能力を養う。「法学領域」、「政治学領域」、「経済学領域」、「社会学領域」、「地理学領域」、「歴史学領域」の6領域に、これらの領域を横断する「社会総合領域」を加えた7領域の科目から、各自の学習計画に応じた必要な科目を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの社会科学系の科目である。	政治・社会・経済といった我々の日常生活を取り巻く環境を正しく理解し、現実社会の様々な問題に対応可能な理解力や思考能力、そこに主体的に働きかけ、よりよい社会を形成してゆく力が身につけている。	0	0	1	0	0	0	0	0	0
自然科学系科目	自然科学に関する幅広い基礎知識や技能、また、現代の科学技術および最先端の研究に関する知識や方法論を養う。そのために、「数学」、「物理」、「化学」、「生物」、「地学」、「情報」の領域に関する科目、および、これらの複数の領域にまたがっている科目群から、各自の学習計画に応じた必要な科目を修得させる。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの自然科学系の科目である。	持続可能な社会の形成を担う先進性と独創性を有する21世紀型市民にふさわしい自然科学に関する幅広い教養が身につけている。	1	0	0	0	0	0	0	0	0
教養科目 総合系科目	教室外活動の実施、大学内外からの講師の積極的登用、授業を一般市民に公開することによる社会との交流などを取り入れながら、アクティブ・ラーニングという新しいスタイルでの教養科目とする。教員と学生間、あるいは受講生同士の双方向型の討論等を積極的に取り入れた授業スタイルの課題解決型学習を中心とし、受講生の主体的な参画により、課題解決に向けた知の統合と実践を行う。さらに、企業等から提供される授業もあわせて実施し、現在および将来にわたり「あたたかな社会」を創るうえで求められる行動的知性を養成する。	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうちの課題解決力の養成を目標とする科目である。	社会問題や企業の第一線から見た世界を知ることにより、変化が激しい現代社会への視野を広げながら、持続可能な社会を創造するために必要な、科学的な根拠を備えた提案や行動に繋がられる課題解決力、行動的知性が身につけている。	0	0	1	0	0	0	0	0	0

授業科目名	授業の内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	学習・教育目標の項目との関連								
				ディプロマポリシーの項目記号								
				達成目標(ディプロマポリシー)の項目との関連を0.0, 0.1, 0.2, ..., 0.9, 1.0の数値で表す								
A	B	C	D	E	F	G	H	I				
初習外国語系科目	<p>大学入学前に、それぞれの言語を学習したことがない初習者を対象に、「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」力を養う「初習外国語基礎Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ」を開講する。上記科目を修得学生のために、各言語の基礎的能力を確認しながら、コミュニケーションやプレゼンテーションなどの実践的な能力の向上を図る「初習外国語応用Ⅰ、Ⅱ」を開講する。</p> <p>一つの言語について6段階別授業を通して学ぶことにより、各言語の基礎的コミュニケーション能力を段階的に向上させることが可能である。また、「初習外国語基礎Ⅰ、Ⅱ」のみを履修することによって、自律的な語学学習スキルを獲得することも可能となる。</p>	幅広い視野に基づく行動的知性と豊かな人間性を身に付ける教養科目のうち初習外国語系の科目である。	初習外国語について「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」ことに関する基礎的能力、諸外国や異文化の多様性への興味・理解、地域的な視野を踏まえた幅広く深い教養と豊かな人間性、語学学習を通じた自律的な大学での学びの基礎が身につけている。	0	1	0	0	0	0	0	0	0
基盤キャリア教育科目	「自分がどんなキャリアデザインを描くのか、どんな大学生活を送ったらよいか、どんな職業選択をするか」を意識しながら学び、職業や働き方への理解や自己理解を深めていく。座学だけでなく、グループワークやインタビュー、外部講師のレクチャーを通じて社会との接点を持ちながら学ぶことを重視し、学生自身の行動や体験を通じたキャリアデザイン力の育成を図る。	学生の社会的・職業的自立に向け、必要な能力や態度(キャリアデザイン能力)の基礎を育成するための科目である。	変化する社会の中で未来を切り拓く知力と行動力を持ち、社会的・職業的に自立して新しい時代に自分らしく活躍することを目指す姿勢、職業や働き方への理解、自己理解を深めるために必要な知識・技能を修得し、自らキャリアデザインを行う基礎が身につけている。	0	1	0	0	0	0	0	0	0
専門導入科目	地域社会分野の地域分析の基礎を学習するため、社会システム、地域資源、地域生活などを分析する学問の序論を解説する。専門分野ごとに初習者向けに解りやすく紹介・解説する。	学部共通の学習・教育目標「(B)科学技術とデザインに関する共通のリテラシーを身につけている。」に寄与する。	(1) 地域社会の制度・社会資源・文化の全体像を俯瞰し、実社会の課題解決や専門分野相互のつながりについて理解する。 (2) コミュニティデザインの専門分野を通して、地域の課題に興味を持ち、種々の観点から自分の考えをまとめることができる。	1	0	0	0	0	0	0	0	0
専門導入科目	建築と地域デザインに関するトピックスを手掛かりとして、人間の居住環境としての建築や都市・地域を建設、維持管理、更新・再生していく上でのハードテクノロジー、ソフトテクノロジーについて、初習者向けにわかりやすく解説する。	学部共通の学習・教育目標「(B)科学技術とデザインに関する共通のリテラシーを身につけている。」に寄与する。	本講義の達成目標は、建築都市分野と地域デザインとの関わりについて理解を深め、他の分野と合わせて複眼的な視点から地域を見ることができるようになることにあり。	1	0	0	0	0	0	0	0	0
専門導入科目	社会基盤整備による良好な社会環境の実現およびそのための社会基盤技術について、専門分野ごとに初習者向けに解りやすく紹介・解説する。	学部共通の学習・教育目標「(B)科学技術とデザインに関する共通のリテラシーを身につけている。」に寄与する。	(1) 社会基盤整備の全体像を俯瞰し、実社会の課題解決や専門分野相互のつながりについて理解する。 (2) 社会基盤デザインの専門分野を通して、地域の課題に興味を持ち、種々の観点から自分の考えをまとめることができる。	1	0	0	0	0	0	0	0	0

授業科目名	授業の内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	学習・教育目標の項目との関連								
				ディプロマポリシーの項目記号								
				達成目標(ディプロマポリシー)の項目との関連を0.0, 0.1, 0.2, ..., 0.9, 1.0の数値で表す								
A	B	C	D	E	F	G	H	I				
地域デザイン訪問	地域社会を自然、歴史、文化的側面から見つめ、これらと地域デザインの知識や技術、対応策との関連について議論を深めることで、デザイン能力育成の端緒とする。このため、各学科で学外見学(実習)を実施し、地域社会のコミュニティや種々の施設、技術や対策の取組みに直接触れる機会を設ける。見学(実習)後には、学科混成グループに分かれて、地域社会の特性や課題についてグループディスカッションし、その結果を発表する。	学部共通の学習・教育目標「(B)科学技術とデザインに関する共通のリテラシーを身につけている。」に寄与する。	地域デザインの現場に直接触れて、それについて調べ、感想・意見を述べるすることができる。 グループで実在する地域デザインについて議論し、その成果を発表することができる。	1								
地域の姿と課題Ⅰ	市町村長や担当行政職員、金融業、建設業、サービス業、製造業等の各種企業、マスメディア、農林水産業、社会福祉や環境NPO/NGO等の実務者を外部講師として招いたオムニバス講座を提供する。地域社会の多様なステークホルダーから直接話を聞く機会を設けることで、地域の現状や課題について幅広い視点から理解する力を養うための導入授業。	共通専門科目として、「地域対応力」のうち、地域に向き合う力を身につける。学部共通のディプロマポリシー「(B)地域デザインに関する共通のリテラシーを身につける」に対応する。	問題探求や課題解決の方法を追求するときに必要な、地域社会の多様な現状や課題について幅広い視点から理解する。	1								
地域コミュニケーション演習	学科混成グループに分かれ、円滑な対人関係づくりの上で地域と連携するのに必要なコミュニケーションスキルを身につけるための知識と手法を学び、グループワーク等を通して学修した手法を実践し、手法の体験的な修得を行う。具体的には、地域の特性を数量的に伝える手法、論理的な文章として伝える手法、地域の地理的特性を読み解く手法などを体験し、それぞれが独自に問いを発見しそれを表現できるようにし、地域でのコミュニケーションに必要な基礎力を養う。	(B)地域における多様な主体との間で意思疎通が図れるコミュニケーション能力を身につける。	円滑な対人関係づくりの上で、地域と連携するのに必要なコミュニケーションスキルを身につける。		1							
地域の姿と課題Ⅱ	地域の現状や課題とその対策および最新技術等についてオムニバス講座を提供し、幅広い視点から地域デザインについて理解する力を養う。「地域の姿と課題特」より進んだ内容とし、より高い専門的レベルでの学習を目指す。	学部共通のディプロマポリシー「(B)地域デザインに関する共通のリテラシーを身につける」。(D)地域デザインを専門とする職業人としての倫理観を身につけている」に対応する。	問題探求や課題解決の方法を追求するときに必要な、地域社会の多様な現状や課題について幅広い視点から理解する。	0.7			0.3					
ワークショップ演習	1グループ4~6名のグループを形成して、実社会で必要となる、課題解決を進める上で必要なファシリテーション や目的に応じたワークショップのデザインについてその意義を学ぶとともに、ロールプレイなどの体験を通して実践的な技術を身につける。ロールプレイでは、宇都宮市の社会・地域課題を取り上げ、課題解決を協働で行うこと を想定し、地域住民、行政、企業などの役割を演じるなど社会実相に即した模擬体験的な学習を行う。	学部共通科目として、地域デザインに関する共通のリテラシーおよびソーシャルスキルを身につけることを目標とする。	設定された課題解決に対する科学的で総合的な対策に向けて、グループで情報収集、討議、まとめ、発表を行う 実践力を身につける。	0.5		0.5						

授業科目名	授業の内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	学習・教育目標の項目との関連 ディプロマポリシーの項目記号								
				達成目標(ディプロマポリシー)の項目との関連 を0.0, 0.1, 0.2, ..., 0.9, 1.0の数値で表す								
				A	B	C	D	E	F	G	H	I
地域プロジェクト演習	「地域対応力」として特に重要なコミュニケーション力、調査・分析力、プレゼンテーション力、チームの一員として動く力(協働力)を養成することを目的としている。学科混成グループに分かれてこれまでに修得した学部の共通専門科目や各学科の専門科目の内容を総合して地域における実問題を扱った問題解決型の演習を行う。具体的には宇都宮市を中心とした栃木県内の自治体などを対象とし自らの力で地域探索やヒアリング各種調査を実施し収集したデータを分析し問題の原因の特定や、それに対する解決策を提案する能力を身につける。各グループが携わる問題に応じて、それぞれの分野の教員がサポートする。扱う問題対象は、各自治体と協働で取り組むことができるものとし、例えば地域ぐるみ子育て、孤立する高齢者の見守りや集う場づくり、フードデザート、自然環境や生物多様性の保全、地域資源を活用した観光振興等が考えられる。本演習を学修することで実践的な総合力を向上させ4年次の「卒業研究」に繋げることでまちづくりを支える専門職業人としての基礎能力を備えることになる。	地域デザイン科学部のディプロマポリシーのうち、(B) 地域デザインに関する共通のリテラシーを身に付ける、(C) 地域デザインに必要なソーシャルスキルを身に付ける、(D) 地域デザインを専門とする職業人としての倫理観を養うの修得に寄与する。	地域対応力に必要な(1) 適切な調査設計や調査分析、(2) 地域探索において自主的に行動し、具体的な解決策を、(3) グループ単位の口頭発表会において資料作成およびプレゼンテーションを実践を通して身につけることを目標とする。	0.5			0.5					
GIS演習	地理情報システム(GIS)は、社会統計や環境情報を始めとする地域の様々な空間情報を収集して整理するとともに、解析評価するために有効なコンピュータシステムである。本演習では、GISやリモートセンシングについて基本的な理論を学習するとともに、コンピュータを用いた演習を行うことで、地域の調査や研究でGISを実際に活用するために必要な初歩的な技能を修得することを目的とする。	(C) 人間と社会・文化、地域に関する教養を身に付けるに関連する。	GISやリモートセンシングについて基本的な理論や応用分野が理解できること、既存の地域環境情報をGISやリモートセンシングを用いて分析し、結果の概要を地図で描くことができること、GISやリモートセンシングを応用し、地域デザインに求められる主題図を作成することができること				1					
地域デザイン倫理	地域デザインに携わる者は、重要な社会資本である社会基盤のデザインを通じて、社会や人そして環境などに対して大きな影響力を有しており、それらに対する責任や倫理観も確かなものが求められている。本講義では、高度に進んだ技術、巨大な組織、複雑に絡み合った利権構造から成り立っている現代社会における地域デザインに携わる者の立場、役割、義務、そして権利などを把握し、分析、判断することを学び、自らの倫理観を自ら確立することを学ぶ。また、研究をする場合の倫理についても併せて学ぶこととする。	学部共通の学習・教育目標(D)社会基盤整備や地域デザインに関わる技術者としての倫理観を身につけている」に寄与する。	1. 現代における地域デザイン倫理の概念について理解すること。2. 社会基盤デザインに絡む種々の事例を省みることで、現代の地域デザインに求められている内容を理解すること。3. 問題に直面したときの対応や解決方法など、倫理観に基づき、各自がそれぞれ自ら判断し決定できること。				1					
微分積分学及演習	解析学の初歩を学ぶ。解析学はひろく連続的に変化する量を扱う分野で、その基本的な道具立てが微積分である。本講義では、連続性や極限などの理論的基盤を築くとともに、専門分野への応用に向けて種々の関数の性質や微積分の基本概念、計算技術などを学ぶ。基本事項を確実に修得できるよう、以下の分担で講義と演習を組み合わせる。2時間(海老原)変数・多変数関数の積分法について基礎的な計算技法や関連した応用例を学ぶ。10時間(津田)変数・多変数関数の微分法と微分方程式の基礎を学習し、演習を行なう。	(A) 科学技術全般とデザイン科学に対する共通のリテラシーを身に付ける。	初等関数についての諸性質を理解し、見通しよく積分計算ができるようになることを目指す。変数・多変数関数の微分法と微分方程式の考え方を理解し、その計算方法を習得する。		1							
建築構造力学Ⅰ	建築物の安全性を検討する構造設計の基本となる構造力学の基礎を学びます。具体的には、静定構造物における力のつり合い、応力の算定、応力度と歪度の関係などを学びます。本講義は建築構造力学演習Ⅰと組み合わせて履修する必要があります。	(D) 建築・地域デザイン技術者としての倫理観を養うを養う、(E) 自然現象のメカニズムを理解し、建築・地域デザイン技術に活かす能力を身に付ける。	静定構造物(片持ち梁、単純梁、静定ラーメン、3ヒンジ架構、静定トラス)における力のつり合いが理解できること。各部位に生じる応力(曲げモーメント、軸方向力、せん断力)を算定して応力図および変形の概略が描けること。構造材料の基本的な力学的性質である応力度と歪度の関係を理解し、応用できること。				0.5	0.5				
建築構造力学演習Ⅰ	建築物の安全性を検討する構造設計の基本となる構造力学の基礎を学びます。具体的には、静定構造物における力のつり合い、応力の算定、応力度と歪度の関係などを学びます。演習では自分の手を動かして実際に問題を解くことで、講義内容を体感的に理解します。	(D) 建築・地域デザイン技術者としての倫理観を養う、(E) 自然現象のメカニズムを理解し、建築・地域デザイン技術に活かす能力を身に付ける。	静定構造物(片持ち梁、単純梁、静定ラーメン、3ヒンジ架構、静定トラス)における力のつり合いが理解できること。各部位に生じる応力(曲げモーメント、軸方向力、せん断力)を算定して、応力図と変形の概略が描くことができること。構造材料の基本的な力学的性質である応力度と歪度の関係を理解し、応用できること。				0.5	0.5				
建設図学	図学は幾何学的な形態を平面に描写する方法の科学であり、空間図形の理解を容易にし空間の把握力を養う。	(B) 地域における多様な主体との間で意思疎通が図れるコミュニケーション能力を身に付ける。	本講義の目的は、立体を平面上へ投影する図法を修得させ、立体と空間の理解を深めることにある。			1						
建築設計基礎	建築設計の基礎となるスケッチや立体構成についての技法を修得し、また、設計図面の作成(トレース)や模型の制作によって、建築の基礎的な表現方法を学び、建築空間の把握力と表現力を養う。	(A) 科学技術全般とデザイン科学に対する共通のリテラシーを身に付ける。	本科目の達成目標は、建築空間の把握力と表現力、建築図面の基礎的な表現方法を習得することにある。	0.5	0.5							
建築構造力学Ⅱ	建築構造力学Ⅰに引き続き構造力学の基礎を学び、構造設計の基本となる静定構造物の応力と応力度の関係、応力と変形の関係について理解を深めます。具体的には、断面図形の性質、断面部材の応力度、座屈、許容応力度設計、変形、仕事と歪エネルギーを学びます。	(E) 自然現象のメカニズムを理解し、建築・地域デザイン技術に活かす能力を身に付ける。	・部材断面の諸性質を理解し、関係諸量を算定できる。・曲げモーメントと垂直応力度の関係を理解し、応力度の検討ができる。・せん断力とせん断応力度の関係を理解し、応力度の検討ができる。・長柱の座屈耐力および座屈応力度を算定できる。・部材および構造物の曲げ変形を求めることができる。					1				
建築構造力学演習Ⅱ	建築物の安全性を検討する構造設計の基本となる構造力学の基礎を学びます。具体的には、静定構造物における力のつり合い、応力の算定、応力度と歪度の関係などを学びます。演習では自分の手を動かして実際に問題を解くことで、講義内容を体感的に理解します。	(D) 建築・地域デザイン技術者としての倫理観を養う、(E) 自然現象のメカニズムを理解し、建築・地域デザイン技術に活かす能力を身に付ける。	静定構造物(片持ち梁、単純梁、静定ラーメン、3ヒンジ架構、静定トラス)における力のつり合いが理解できること。各部位に生じる応力(曲げモーメント、軸方向力、せん断力)を算定して、応力図と変形の概略が描くことができること。構造材料の基本的な力学的性質である応力度と歪度の関係を理解し、応用できること。				0.5	0.5				
線形代数及演習	ベクトルと行列の抽象的理論。ベクトル・行列等の数学的意味について理解することを目的とする。	(A) 科学技術全般とデザイン科学に対する共通のリテラシーを身に付ける。	理工系学部において、線形代数の理論は専門分野の基礎知識である。行列とベクトルを中心にして、線形代数の理論とその応用を学んで行くことにする。さらに演習ではできるだけ多くの問題を解き、理解を深め、その応用力を養う。本講義は、技術者としての基礎学力の修得とその応用力の育成を達成目標とする。		1							

授業科目名	授業の内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	学習・教育目標の項目との関連									
				ディプロマポリシーの項目記号									
				達成目標（ディプロマポリシー）の項目との関連を 0.0, 0.1, 0.2, …, 0.9, 1.0の数値で表す									
A	B	C	D	E	F	G	H	I					
建築計画学 I	建築計画は建築企画・構想を受け、建築設計の前段階として行われ、設計する建物に求められる機能・性能、運営組織と管理者・利用者の関係づけ、設計思想の歴史の変遷、今後予測される事項などを建物一般、および個々の建物種類ごとの特性をふまえて検討する過程です。その考え方や方法について解説します。	(F) 人間および社会の要求・条件を理解し、建築・地域・環境・制度を構想する能力を身に付ける	本講義の達成目標は、建築設計の基礎となる建築計画の考え方や基本的な方法について、いくつかの建物種類を例にとりあげながら習得することにあります。				0.5	0.5					
建築コンバージョン論	建築物のコンバージョンに対する基礎的な内容について学習し、既存建築ストックの継続使用に必要な建築物のコンバージョンについて知識を習得する。	(D) 建築・地域デザイン技術者としての倫理観を養う、(F) 人間および社会の要求・条件を理解し、建築・地域・環境・制度を構想する能力を身に付ける、(G) 資源活用と建設プロセスを構想し、建築・まちづくりとして実現する能力を身に付ける	既存建築ストックの継続使用と有効活用に必要な建築物のコンバージョンに関する知識を身に付け、建築技術に活かす能力を身に付ける。				0.3	0.3	0.4				
環境工学 I	建築の室内外の環境（熱、光、空気、音、エネルギー）に関する基礎的な講義を行う。また簡易な模型などを活用し、グループ討議を行いながら、建築デザインが環境要素にどのように影響を及ぼすかについて把握する。	(E) 自然現象のメカニズムを理解し、建築・地域デザイン技術に活かす能力を身に付ける。	室内環境を形成する物理的要素と外界からの影響を理解するとともに、それらを定量的に求める計算方法と建築的な対策方法や技術を理解する。					1					
建築構法	建築物の構成部品や構成方法について、躯体構法と各部構法に分け、その仕組みや特徴に関して学修する。	(D) 建築・地域デザイン技術者としての倫理観を養う、(E) 自然現象のメカニズムを理解し、建築・地域デザイン技術に活かす能力を身に付ける、(F) 人間および社会の要求・条件を理解し、建築・地域・環境・制度を構想する能力を身に付ける、(G) 資源活用と建設プロセスを構想し、建築・まちづくりとして実現する能力を身に付ける、(H) 歴史文化を尊重し、目標を立てて建築・地域を創造するデザイン能力を身に付ける	本講義では、建築物の構成と仕組みを理解し、建築に関する基礎知識を身に付けることを目標としている。				0.2	0.2	0.2	0.2	0.2		
建築設計製図 I	建築設計基礎に引き続き、設計図面の作成（トレース）によって、建築の基礎的な表現方法を学び、建築空間の把握力と表現力を養う。また、それを基本として、住宅の設計課題を通して、居住空間の空間構成や木造の架構法をふまえた、設計手法と作図の表現方法を習得する。	(A) 科学技術全般とデザイン科学に対する共通のリテラシーを身に付ける、(B) 地域における多様な主体との間で意思疎通が図れるコミュニケーション能力を身に付ける	本科目の達成目標は、建築図面の基礎的な表現方法、および住宅等の基礎的な設計手法と意匠表現を習得することにある。	0.5	0.5								
建築計画学 II	建築計画の方法は空間のスケールにより異なってきます。空間スケールが大きくなるに従い、建築計画の対象は個々の人間生活から人間活動の集合としての地域コミュニティや都市に移ります。その一連の考え方や方法を歴史的な変遷を含め、具体的に解説します。	(D) 建築・地域デザイン技術者としての倫理観を養う、(F) 人間および社会の要求・条件を理解し、建築・地域・環境・制度を構想する能力を身に付ける	本講義の達成目標は、集合住宅の住戸計画を始めとして、住棟、住宅団地、街区、都市など各スケールでの建築・都市計画の基本的な考え方や方法を習得することにあります。				0.5	0.5					
バリアフリー建築論	あらゆる人々が自立した社会生活を送れるようになることが、現代社会においては理想とされています。そのための障壁を取り除くのが、バリアフリーであり、ユニバーサルデザインです。そこで、本科目では建物・空間におけるバリアフリー・ユニバーサルデザインについて、学び考えるものとします。具体的には、バリアフリー・ユニバーサルデザインの考え方、体験、バリアフリー法の概要、事例紹介、点検などを通じて、新しい手	(C) 人間と社会・文化、地域に関する基礎的教養を身に付ける、(D) 建築・地域デザイン技術者としての倫理観を養う、(F) 人間および社会の要求・条件を理解し、建築・地域・環境・制度を構築する能力を身に付ける	本講義によって、バリアフリー・ユニバーサルデザインに関する基本的な考え方と代表的な事例に対して理解すること、また様々な人々の行動に関して思慮できるようになること、を目標とします。			0.3	0.3	0.4					
設備工学 I	建築設備は、建築室内環境を良好にし、人の活動を支援するためである。ただし、室内環境を良好にするには、建築設備以前に建築自体の性能を高める必要がある。設備工学 I では、建築と設備の環境調整性能について、電気設備・給排水設備・空気調和設備の使用、仕組み、主要な機器構成など設備全般の概要について講義する。	(D) 建築・地域デザイン技術者としての倫理観を養う、(F) 人間および社会の要求・条件を理解し、建築・地域・環境・制度を構築する能力を身に付ける	建築設備全般に関する基本知識を修得する。具体的な目標は以下である。・自然、周囲環境との調和、建築と建築設備の協調が重要であることを理解する。・建築設備に関連する人の生理・健康性・快適性及び環境の基本を理解する。・建築設備システムを構成する主要な機器の役割と機器同士のつながりを理解する。・身近にある建築設備とその機能に関心をもつ。				0.5	0.5					
建築材料 I	建築物を構成する種々の材料のうち、主要な構造材料であるコンクリートおよび鋼材の特性や性能等を学習する。	(D) 建築・地域デザイン技術者としての倫理観を養う、(E) 自然現象のメカニズムを理解し、建築・地域デザイン技術に活かす能力を身に付ける、(G) 資源活用と建設プロセスを構想し、建築・まちづくりとして実現する能力を身に付ける	建築材料の特性や性状変化のメカニズムを理解し、建築技術に活かす能力を身に付ける。			0.3	0.3	0.4					
建築設計製図 II	各種の設計課題を通して、多人数が利用する建築の空間や動線の構成、周辺環境との関係、構造の一般的な納まり等をふまえた、設計手法と表現方法を修得する。	(D) 建築・地域デザイン技術者としての倫理観を養う、(H) 歴史文化を尊重し、目標を立てて建築・地域を創造するデザイン能力を身に付ける、(I) 工学・地域デザイン科学と芸術・文化のバランスのとれた感性を磨く	本科目の達成目標は、建築設計のうち保育施設や集合住宅等の各種建築の基礎的な設計手法と意匠表現を習得することにある。				0.3				0.3	0.4	
建築材料実験	建築物を構成する種々の材料のうち、主要な構造材料であるコンクリート、鋼材、木材などの諸性質について各種の実験を行い、建築材料の特性や性能等を学習する。	(D) 建築・地域デザイン技術者としての倫理観を養う、(E) 自然現象のメカニズムを理解し、建築・地域デザイン技術に活かす能力を身に付ける	建築材料の特性や性状変化のメカニズムを理解し、建築技術に活かす能力を身に付ける。また、日本工業規格（JIS）で規定されている各種材料の試験・評価、品質管理方法を学習し、建築技術者としての倫理観を養う。			0.5	0.5						

授業科目名	授業の内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	学習・教育目標の項目との関連 ディプロマポリシーの項目記号								
				達成目標（ディプロマポリシー）の項目との関連 を 0.0, 0.1, 0.2, …, 0.9, 1.0 の数値で表す								
				A	B	C	D	E	F	G	H	I
建築設計製図Ⅲ	建築設計製図Ⅱに続いて、各種の建築の設計課題を通して、建築の空間構成および、計画、構造、設備、材料といった建築の諸側面の統合化による設計手法と意匠表現を修得する。	(D) 建築・地域デザイン技術者としての倫理観を養う、(H) 歴史文化を尊重し、目標を立てて建築・地域を創造するデザイン能力を身に付ける、(I) 工学・地域デザイン科学と芸術・文化のバランスのとれた感性を磨く	本科目の達成目標は、建築設計のうち図書館や公共施設等の各種建築の基礎的な設計手法と意匠表現を習得することにある。				0.3				0.3	0.4
建築法規	1. 建築法規の基本である建築基準法を体系的に理解するため、建築基準法の沿革及び構成について学ぶ。 2. 建築法規は法律特有の表現からくる難解さがあるので、法規を理解するための基礎知識として、法令の種類、形式について学ぶ。 3. 建物を建築するには、建築基準法だけではなく多くの法令が関わってくるため、建築に関する主な法令のあらましについて学ぶ。 4. 建築士の資格、建築士事務所の業務を定めている建築士法について学ぶ。 5. 行政事例を通して、建築物の安心、安全について理解を深める。	(D) 建築・地域デザイン技術者としての倫理観を養う、(F) 人間および社会の要求・条件を理解し、建築・地域・環境・制度を構想する能力を身に付ける	建築物の最低の基準を定めた「建築基準法」の理解を深めることは、建築に携わる技術者にとって極めて大切なことである。本授業の目標は「建築基準法」と建築に関する他の法令等の基本的な知識を習得し、今後の具体的な建築物の設計、施工の際に、その知識を生かすことにある。									
建築生産	建築技術者として知っている必要が有ると考える種々の施工に関する技術・知識について説明し、それらが実際の建設工事でのように行なわれているかをビデオ等で見せる。	(G) 資源活用と建設プロセスを構想し、建築・まちづくりとして実現する能力を身に付ける	1. 建物を作る方法を詳述し、建築工事についての学生の理解を深める。2. 上記により、設計、構造、土質、材料等各分野の学習の補完をする。3. 実社会に出て建築の様々な分野に進んだ時に、各分野と施工がどう関連するかを学習させる。							1		
地域設計製図	建築設計製図構、圖、(空)に続いて、計画、意匠、構造、環境、材料等の現代的な課題をふまえた建築設計や、地域地区の設計を行う。現代社会における建築と地域についての問題意識の向上を図るとともに、地域社会に対する新しい設計提案を求め、また、図面表現、発表表現における高度な修練を行う。	(D) 建築・地域デザイン技術者としての倫理観を養う、(H) 歴史文化を尊重し、目標を立てて建築・地域を創造するデザイン能力を身に付ける、(I) 工学・地域デザイン科学と芸術・文化のバランスのとれた感性を磨く	本科目の達成目標は、建築設計のうち地域社会との関連における建築の設計手法と高度な意匠表現を習得することにある。				0.3				0.3	0.4
建築環境実験	本実験は、熱・光・音・空気などの自然の要素が建築内外においてどのような現象を示すかを定量的に測定する 方法や分析・評価する方法を学び、自然現象と建築技術の調和を図るための基礎的知識を習得する。また自主的に 自由に実験目的を設定して測定を行い考察する能力を身に付ける。	(E) 自然現象のメカニズムを理解し、建築・地域デザイン技術に活かす能力を身に付ける。	・熱・光・音・空気質等の建築物に関わる基本的な環境要素の測定法を習得する。・現象や実態に対する興味、疑問をもとに、解明のためのテーマを設定する力を養う。・設定したテーマに対し、適切な測定計画をたてる力を養う。・測定結果の特徴を分析する力、正しく比較評価する力を養う。・測定結果の効果的な表現力、考察の記述力、簡潔な結論の記述力を養う。					1				
卒業研究	卒業研究は、配属される各研究室において、指導教員による指導の下、選択したテーマにもとづき、実験、実測、現地調査などを通じて得た資料・データを整理、分析して、論文としてとりまとめ発表審査を受ける一連の作業である。	(F) 人間および社会の要求・条件を理解し、建築・地域・環境・制度を構想する能力を身に付ける、(G) 資源活用と建設プロセスを構想し、建築・まちづくりとして実現する能力を身に付ける、(I) 工学・地域デザイン科学と芸術・文化のバランスのとれた感性を磨く	卒業研究の達成目標は、主に専門科目において習得した知識や技術を集大成すべく、それらを活用して各自が取り組む研究テーマについて課題解決を図る能力を身につけること。						0.3	0.3		0.4
卒業設計	卒業設計は、学部授業で修得した建築に関する知識・技術にもとづき、自ら設計テーマや敷地、建物用途などを自由に設定し、与えられた枚数の建築図面として表現して発表審査を受けるときの作業である。	(F) 人間および社会の要求・条件を理解し、建築・地域・環境・制度を構想する能力を身に付ける、(G) 資源活用と建設プロセスを構想し、建築・まちづくりとして実現する能力を身に付ける、(H) 歴史文化を尊重し、目標を立てて建築・地域を創造するデザイン能力を身に付ける、(I) 工学・地域デザイン科学と芸術・文化のバランスのとれた感性を磨く	・歴史文化を継承し、地域社会に貢献する建築の意識を持つ。・都市や地域が育んできた歴史や空間の中で建築設計を行う能力を磨く。・施設建築の建築条件を理解し、設計を行う能力。・建築学に関する包括的な専門知識と構造、計画、環境設備、材料・構法などの専門知識の活用。						0.2	0.2	0.3	0.3
高齢社会学	本講義では現代社会における最も重要なテーマである、高齢社会の問題について福祉社会学の視点から学ぶ。まず、高齢社会の到来の背景を取り上げ、それらが問題化される理由を、戦後日本の歴史の中に位置づける。その上で、「老い衰えゆくこと」そして「呆けゆくこと」がどのような経験であるのか、当事者の立場に降り立った形で理解する。以上の理解の上で、高齢者福祉政策の歴史的な変化および、現代日本の高齢者福祉を支える介護ケアや介護には、身近な事例を参考にしながら活動していくための知識を歴史的背景や制度的背景を知り、社会問題・社会構造の変容とまちづくりの関係について理解を深め、まちづくりとは何かを捉える力を養う。まず、公害問題や計画策定における市民参加・参画といった従来の運動論的な「まちづくり」を踏まえつつ、昨今の協働のまちづくりの現状を知る。さらに協働のまちづくりを進める上で重要となる制度・政策としての「地域ガバナンス」の視点を重視し、地域的まとまりに着目したコミュニティの持続的な仕組みづくりを学ぶ。持続的な仕組みづくりを担う、コミュニティ組織、コミュニティ組織が対象とする問題領域、またそれらを支える制度について、日欧米の相違を教訓し、その類型	(C) 人間と社会・文化・地域に関する教養を身に付ける	現代社会における高齢社会の問題を理解し、それらを解決するための方向性を、学生自身が見出せるようになることを目標とする。			1						
まちづくり論	この講義では、不静定構造物を対象として、実構造物の構造設計に役立つ「応力と変形の解析手法」と「構造設計の概要」を学びます。	(3) 人間と社会・文化・地域に関する教養を身につける	日本の住民主体のまちづくりについて、参加と協働のまちづくりがどのように発展してきたのか、制度的位置づけや歴史の変遷などについて基本的なことを理解した上で、社会問題・社会構造の変容とまちづくりとの関係を捉える力を養うことを目標とする。			1						
建築構造力学Ⅲ	この講義では、不静定構造物を対象として、実構造物の構造設計に役立つ「応力と変形の解析手法」と「構造設計の概要」を学びます。	(E) 自然現象のメカニズムを理解し、建築・地域デザイン技術に活かす能力を身に付ける	たわみ角法、固定モーメント法を用いて応力解析および変形の検討ができる。実構造物を対象とした構造設計の概要を理解し、保有水平耐力の検討ができる。					1				
社会調査法	地域課題の把握、発見の基礎となる各種社会調査法に関する専門的、技術的な事項について解説する。	(D) 建築・地域デザイン技術者としての倫理観を養う、(F) 人間および社会の要求・条件を理解し、建築・地域・環境・制度を構想する能力を身に付ける	本講義の達成目標は、各種社会調査法に関する専門技術の知識とそれらをもちいて地域を分析できる能力を養うことである。				0.5		0.5			

授業科目名	授業の内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	学習・教育目標の項目との関連 ディプロマポリシーの項目記号								
				達成目標(ディプロマポリシー)の項目との関連 を0.0, 0.1, 0.2, ..., 0.9, 1.0の数値で表す								
				A	B	C	D	E	F	G	H	I
建築史 I	建築史の学習には、広い知識(歴史、様式、技術)が必要である。さらに建築の「意匠」を学習するには、それらの知識の蓄積の上に「造形(建築)言語」、つまり建築を評価する視点が必要となる。本講義では、これまで先学が行ってきた膨大な量の建築史研究をもととして、古代エジプト、ギリシャ、ローマ、ビザンチン、ロマネスク、ゴシック、ルネサンスバロック、ロココ、植民地建築とリバイバルの様式変遷を軸とした西洋の建築史の概要を学習する。	(H) 歴史文化を尊重し、目標を立てて建築・地域を創造するデザイン能力を身に付ける	西洋の建築史について、古代エジプト、ギリシャ、ローマ、ビザンチン、ロマネスク、ゴシック、ルネサンスバロック、ロココ、リバイバルの流れを軸とした様式変遷を修得すること、またそれらの材料、構造、技術、デザインの概要を把握すること。								1	
建築構造力学IV	構造設計に役立つ弾性論、塑性論、座屈論などの基礎理論を学び、部材や骨組の弾塑性挙動に関する理解を深めよう。	(E) 自然現象のメカニズムを理解し、建築・地域デザイン技術に活かす能力を身に付ける。	・弾性論と塑性論の基礎を理解し、部材の弾塑性挙動を算定できること。・座屈論の基礎を理解し、単一圧縮材の曲げ座屈耐力の算定式を誘導できること。・仮想仕事の原理を理解し、板の塑性耐力を算定できること。					1				
環境工学 II	建築環境および都市環境に関する講義を行なう。パッシブデザインを行うための計算方法とライフサイクル評価について取り扱う。建築スケールおよび都市スケールの両面についての検討方法について解説を行なう。	(E) 自然現象のメカニズムを理解し、建築・地域デザイン技術に活かす能力を身に付ける。	1. 建築内外の環境を構成する物理的要素を理解し、優れた環境を創造するための技術を学ぶ。2. 建物が外部環境に及ぼす影響と環境負荷削減方法について学ぶ。					1				
防災マネジメント I	近年、地震、津波、洪水、土石流、高潮、竜巻など過去に例をみないような自然災害が頻発しています。本講義は、これらの自然災害の発生メカニズム、防御・軽減対策、災害時の危機管理および災害後の復旧に向けた防災計画の立案・策定に必要な基礎知識を身につけることをねらいとしています。	社会基盤デザイン学科の学習・教育目標「(F) 社会基盤整備の実務上の問題に専門知識を適用・発展することができる」「(G) 社会基盤の世界的動向を把握して、グローバルな技術展開ができる」「(H) 社会基盤整備による問題解決のための適切な施策を提案することができる」	本講義では、1. 災害の特性や発生メカニズムに関する知識を身につける。2. 平時の防災対策、災害発生後の危機管理の基本や災害後の復旧を視野に入れた防災マネジメントの考え方を身につける。3. さらに国内外を問わず行われている先進事例を含め、実社会における防災対策の実現に向けた視点と留意点を理解することを目標とします。							1		
まちづくり特講	地方都市やその周縁部地域における社会構造や人口・世帯構造の変化を整理しつつ、地域問題の傾向を把握する。そして、典型的な地域問題に対するまちづくりの実践例を学び、問題解決に向けて、まちづくりの今後の方向性を議論し、受講生自らがまちづくりリーダーとなることを想定したまちづくりプランを作成する。講義では複数の教員によるオムニバス授業とワークショップを行う。	(C) 人間と社会・文化・地域に関する教養を身につける				1						
学外実習 I	建築学は実社会との結び付きが極めて強く、学内における講義、演習、実験だけではなく実社会での体験、知識の習得が重要である。本科目では、学外における実社会での体験を通して建築学の社会に果たす役割の一端を把握すること、建築学を学ぶ目的の再確認、そして学生本人の将来の進路を検討するための一つ機会として位置付ける。	(B) 地域における多様な主体との間で意思疎通が図れるコミュニケーション能力を身に付ける	建築全般に対する興味や好奇心を醸成する。			1						
学外実習 II	建築学は実社会との結び付きが極めて強く、学内における講義、演習、実験だけではなく実社会での体験、知識の習得が重要である。本科目では、学外における実社会での体験を通して建築学の社会に果たす役割の一端を把握すること、建築学を学ぶ目的の再確認、そして学生本人の将来の進路を検討するための一つ機会として位置付ける。	(B) 地域における多様な主体との間で意思疎通が図れるコミュニケーション能力を身に付ける	建築全般に対する興味や好奇心を醸成する			1						
社会統計学	推測統計の考え方、集計、分析手法を学修する。併せて、多変量解析についても学修する。仮説検定の方法を身に付ける。重回帰分析を使うようになるとともに、最小二乗法について理解する。多変量解析手法のうち、主として量的データを解析するとき用いる重回帰分析、質的データを被説明変数とする解析に用いるロジスティック回帰分析、多様	(C) 人間と社会・文化・地域に関する教養を身につける				1						
建築計画学III	建築設計の基礎となる各種公共建築物に関する専門的、技術的な事項について解説する。	(D) 建築・地域デザイン技術者としての倫理観を養う、(F) 人間および社会の要求・条件を理解し、建築・地域・環境・制度を構想する能力を身に付ける	本講義の達成目標は、公共建築物の計画に関する専門技術の知識とそれらを設計デザインに活用できる能力を養うことである。				0.5		0.5			
都市計画	都市計画は、土木、建築、造園等の技術を都市のスケールで展開する分野であり、我々の生活を支えるルールの一つともいえます。身近な日常生活の問題がどのように扱われているか考えましょう。一方で、時代の大きな変化のなかで、新しい都市計画のシステムが模索されています。次の世代を担う君たちのライフスタイルにあった都市環境はどうあるべきか学びましょう。	(F) 人間および社会の要求・条件を理解し、建築・地域・環境・制度を構想する能力を身に付ける	都市計画の特徴は、基本的な用語の概念を正確に理解することから始まります。教科書の構成とキーワードを丁寧に学習してください。それを用いて、都市を語れるようになることが目標です。						1			
建築リサイクル学	建築物に使用される資源、建築物の解体、解体材等のリユース・リサイクルに関する基礎について学習するとともに、関連する法令や制度について学習する。	(G) 建築・地域デザイン技術者としての倫理観を養う、(F) 人間および社会の要求・条件を理解し、建築・地域・環境・制度を構想する能力を身に付ける、(G) 資源活用と建設プロセスを構想し、建築・まちづくりとして実現する能力を身に付ける	建築物の解体、解体材等のリユース・リサイクルに関する知識を身に付け、建築技術に活かす能力を身に付ける。				0.3		0.3	0.4		
建築史 II	建築史 II は、近代建築史の思潮の変遷及び近代建築家作品を対象としている。この特徴は、近代においてより良い建築作品が歴史の中で残され、その時代を語る記録とされているため、現代における建築設計の思想の原点を知る上で多くの示唆を与えており、そのため設計の発想となる契機として利用されることがある。建築史 II の講義は現在の立場において創造的な行動に一つの手がかりを与えることを目的としており、単に過ぎ去った過去の時代の建築を解き明かすことが目的ではない。また結末が示されていない時代の建築と同じ目で、より創造的であろうとする立場から、近代建築の思想の流れを分析し、解釈することを目指している。	(H) 歴史文化を尊重し、目標を立てて建築・地域を創造するデザイン能力を身に付ける	本講義は 19 世紀近代建築思潮から現・近代建築まで、建築作品及び建築思潮を通して設計概念と建築思想の変遷過程を理解することが目標である。								1	
鉄骨構造	建築構造物の主要な構造形式である鉄骨構造による構造体を設計するための基本的な項目について習得し、鉄骨構造骨組の構造設計の内容について学びます。	(E) 自然現象のメカニズムを理解し、建築・地域デザイン技術に活かす能力を身に付ける	構造形式として鉄骨構造の特徴を理解する。引張力、圧縮力、曲げモーメントを受ける部材の設計ができる。接合部のディテールを理解して、接合部の設計ができる。鉄骨造建築物の構造設計の流れを理解する。					1				

授業科目名	授業の内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	学習・教育目標の項目との関連 ディプロマポリシーの項目記号								
				達成目標(ディプロマポリシー)の項目との関連 を0.0, 0.1, 0.2, ..., 0.9, 1.0の数値で表す								
				A	B	C	D	E	F	G	H	I
鉄筋コンクリート構造	鉄筋コンクリート部材の構造計算に関する基本的な項目について習得し、鉄筋コンクリート造建築物の構造設計について学びます。	(E) 自然現象のメカニズムを理解し、建築・地域デザイン技術に活かす能力を身につける	・鉄筋コンクリート造建築物の構造的特徴を理解する。・部材の主筋の設計ができる。・部材のせん断補強筋の設計ができる。・鉄筋コンクリート造建築物の構造設計の流れを理解する。・鉄筋コンクリート造建築物の構造安全性を検討できる。						1			
設備工学Ⅱ	設備工学Ⅱでは、空調設備について、冷暖房の原理を説明した上で、エネルギー有効利用として、自然エネルギー利用、排熱回収、ロス回収などがあること、具体的なエネルギー有効利用の手法とその考え方を説明する。	(F) 人間および社会の要求・条件を理解し、建築・地域・環境・制度を構想する能力を身に付ける	個別空調方式と中央空調方式熱源システムを学ぶ。具体的な目標は以下である。・ルームクーラの原理、ヒートポンプの原理を理解する。・圧縮式冷凍機と吸収式冷凍機の原理と特徴の違いを理解する。・ヒートポンプや吸収式冷凍機を利用したエネルギー有効利用の考え方を理解する。						1			
設備設計論	建築と設備の境界領域、最新の環境技術・社会動向、実物件への導入事例を中心に、建築における設備設計の役割と重要性、設備設計の基礎知識について授業を行います。	(F) 人間および社会の要求・条件を理解し、建築・地域・環境・制度を構想する能力を身に付ける。 (1) 工学・地域デザイン科学と芸術・文化のバランスのとれた感性を磨く。	実務者からの視点で建築設備の現状と設計への対処例を紹介することで、建築業界への理解を深めるとともに建築設備設計の基礎的知識を習得する。							0.5		0.5
建築材料Ⅱ	建築物は多くの種類の材料や部品から構成されており、建築物の所定の性能や機能を実現するためには、適切な種類・品質の材料・部品を選択し、適切に使用することが重要である。この授業では、木材・木質材料、各種仕上材料および機能性材料の特性、性能、製造法等を学習する。	(G) 資源活用と建設プロセスを構想し、建築・まちづくりとして実現する能力を身に付ける	建築材料の特性や性状変化のメカニズムを理解し、建築技術に活かす能力を身に付ける。								1	
生物多様性論	開発政策の推進から、回復が取り遅いのが生物多様性の破壊です。野生で生活する個体が失われると、その個体群を回復させるのは非常に困難で、絶滅すれば、その種は二度と戻りません。人間は生態系がもたらす様々なサービスを完全に依存して、そのサービスの相当部分を生物多様性がもたらしています。本講義では、「生物多様性を失うと、こうしたサービスも失われるのか」という問いかけに応じた様々な研究事例と、それらから得たことを知ることで目を覚ましませ	(C) 人間と社会・文化・地域に関する教養を身につける	生物多様性は私たちの暮らしにどのような財や恩恵を提供しているのか、また生物多様性はどのように維持されているのかについての知識を習得し、生物多様性保全の意義について理解することを目標としています。			1						
建築計画学Ⅳ	建築設計の基礎となる各種公共建築物に関する専門的・技術的な事項について解説する。	(F) 人間および社会の要求・条件を理解し、建築・地域・環境・制度を構想する能力を身に付ける	本講義の達成目標は、公共建築物および業務施設の計画に関する専門技術の知識とそれらを設計デザインに応用できる能力を養うことである。						1			
地区計画	前半は佐藤教員(建築都市デザイン学科)が、また後半は長田教員(社会基盤デザイン学科)が行う。日常生活の身近な範囲である地区を主な対象として、まちづくりとコミュニティの概念の基礎的な理解をもとに、住民参加を推進するコミュニティ計画、地区計画のあり方を解説する。さらに、市街地の具体的な事例を通して計画の進め方と事業制度の根拠を学ぶ。	(F) 人間および社会の要求・条件を理解し、建築・地域・環境・制度を構想する能力を身に付ける	1. 法定地区計画および自治体まちづくり条例にもとづく地区計画など、地区レベルの計画に必要な基礎的な概念と手法として下記を修得する。1) まちづくりの概念と地区計画との係わり2) まちづくり条例とまちづくり規範3) コミュニティと住民参加2. 具体的な事例を通して、地区計画の内容と整備手法を理解する。						1			
建築デザイン	建築の構成に関して、室、架構、動線、ヴォリューム、外部空間等による部分と全体の原理を解説し、建築デザインの統合方法についての分析力と構想力を修得する。	(H) 歴史文化を尊重し、目標を立てて建築・地域を創造するデザイン能力を身に付ける	建築デザインのまとめ方に関するリテラシーを獲得する。								1	
建築史Ⅲ	本講義は、古代から近世に至る日本建築の形成および発展過程を捉え、日本建築の特徴あるいは日本的な意匠とはどのようなものかについて解説する。歴史意匠は建築史学の意匠(デザイン)を含む学問で、過去の歴史において、どのような建物が建てられ、どのような意味で歴史に残っているのか、またその意匠はどのような歴史的背景と技術的変遷を経て建てられたものかについて学ぶもので、現代の設計行為やデザインをする際に、基本的な概念と現代の問題解決に必要なヒントを与えようとするものである。	(H) 歴史文化を尊重し、目標を立てて建築・地域を創造するデザイン能力を身に付ける	古代から近世に至る日本建築の形成および発展過程を捉え、日本建築の特徴あるいは日本的な意匠とはどのようなものかを理解する。								1	
高齢者防災論	心身機能が衰えてくる高齢期には、それまでにない災厄に見舞われやすくなってしまいます。ただ災厄といっても、天災・人災から事故や犯罪などさまざまです。本科目では、高齢者をはじめとする乳幼児・障がい者ら災害弱者に対する防災について広く学び考えることで、万人の安心と安全につながる知識を得ることを目指します。具体的には、災厄の種類と特徴、安心と安全の関係、高齢者等の感覚・知覚・行動・心理の特性、日常生活で	(F) 人間および社会の要求・条件を理解し、建築・地域・環境・制度を構想する能力を身に付ける	本講義によって、高齢者の特性や被災時の人の行動について理解し、災害弱者をはじめとした様々な人の防災に役立つ知識を得ることを、を目標とします。						1			
構造設計論	建築物の構造設計の流れと具体的な内容について、実際の設計例を教材として学びます。地震と構造設計との関連を被害例から学びます。		構造設計の流れを理解する。構造設計の基本的な内容を理解する。									
土質基礎工学	建物を設計・施工する上で必要な基本的な地盤・基礎に関する知識や考え方。	(E) 自然現象のメカニズムを理解し、建築・地域デザイン技術に活かす能力を身につける。	基礎構造は、建物からの応力を地盤に伝達する重要な部分であり、建物の安全性に重要な役割を担っている。本講義では、建物を設計・施工する上で必要な地盤・基礎に関する基本的な知識や考え方の習得を目標とする。						1			
設備工学Ⅲ	設備工学Ⅲでは、空調設備のうち、主に室内環境を良好に保つためのシステムを講義する。用途に応じた空調方式、空調ゾーンニングや空調装置設計法、環境建築設計のための各種手法と設計事例について講義する。	(F) 人間および社会の要求・条件を理解し、建築・地域・環境・制度を構想する能力を身に付ける	・空調機での空気の加熱冷却・加湿除湿の原理と特徴を理解し熱量計算ができる。・主要な室内空調方式の特徴、空調ゾーンニングと空調方式の選定法を理解する。・省エネルギー技術の特徴を理解し、建築と設備の性能向上の重要性を認識する。・設計製図Ⅴ(事務所)の空調システムのコンセプト提案のための基礎力をつける。						1			
地域環境エネルギー計画	地域環境と地域エネルギー計画に関する講義を行なう。地域の環境資源、未利用エネルギー資源を見出し、それらを地域の特性に応じて技術的に利用可能なシステムとして計画する方法論について取り扱う。先進事例、現地見学・調査、グループ課題を通じて、地域環境計画、地域エネルギー計画の基礎について理解を深める。	(E) 自然現象のメカニズムを理解し、建築・地域デザイン技術に活かす能力を身につける。	1. 地域の環境資源、未利用エネルギーを見出すスキルを身につける。2. 地域、都市レベルでのエネルギー供給、システムについて理解する。3. 地域の特性に応じた環境資源、エネルギー資源の活用方法について学ぶ。						1			
建築インターンシップ	建築学は実社会との結び付きが極めて強く、学内における講義、演習、実験だけではなく実社会での体験、知識の習得が重要である。本科目では、学外における実社会での体験を通して建築・都市デザイン学の社会に果たす役割の一端を把握すること、建築・都市デザイン学を学ぶ目的の再確認、そして学生本人の将来の進路を検討するための一つ機会として位置付ける。	(B) 地域における多様な主体との間で意思疎通が図れるコミュニケーション能力を身に付ける。	学外における実社会での体験を通して建築・都市デザイン学の社会に果たす役割の一端を把握すること、建築・都市デザイン学を学ぶ目的の再確認、そして学生本人の将来の進路を検討するための一つ機会として位置付ける。						1			

授業科目名	授業の内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	学習・教育目標の項目との関連								
				ディプロマポリシーの項目記号								
				達成目標（ディプロマポリシー）の項目との関連を0.0, 0.1, 0.2,・・・,0.9, 1.0の数値で表す								
A	B	C	D	E	F	G	H	I				
建築学外実習	古建築や伝統的町並みの見学,あるいは最新の技術を駆使した建築の見学を通して,今後の建築のあり方を考察することに役立てる建築文化や建築技術について学びます.	(H) 歴史文化を尊重し、目標を立てて建築・地域を創造するデザイン能力を身に付ける	国内または国外の建築物を実際に見学し、建築に対する理解を深める									1
国土計画	我が国の国土づくりの基本的な指針である国土計画について,これまで果たしてきた役割とその評価,国土の将来像,課題等に精通し,また国土建設の公共部門を担う国土交通省や県庁の行政の仕組み等について理解できるように講義する.	(C) 人間と社会・文化・地域に関する教養を身に付ける	本講義は,「実務や実社会の問題を題材として,異なった意見や考え方を種々の視点から比較し,各専門分野と実務との関係を理解する」ことを目標とする.			1						